

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果

図 学校教育課 ☎ 63-3118

文部科学省は毎年4月に、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策や学校の学習指導の充実に役立てることを目的に、すべての小学6年生と中学3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」を実施しています。令和4年度は、国語、算数・数学に加えて、小中学校ともに理科の調査が実施されました。

宍粟市では、この結果を分析し、明らかになった課題を克服するために、小中学校が連携して学力向上に向け取り組んでいます。家庭や地域においても、ご協力をお願いします。



調査の概要

(1) 調査人数 小学校6年生【285人】中学校3年生【291人】

(2) 調査内容

ア 教科に関する調査

- ・小学校6年生【国語、算数、理科】
- ・中学校3年生【国語、数学、理科】

イ 児童生徒質問紙調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などに関する質問

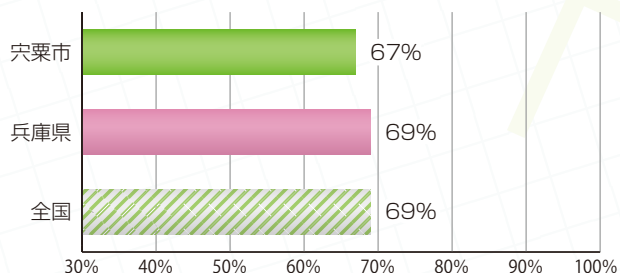


この調査により測定できるのは学力の一部であって、結果の数値などは児童生徒の学力の全てを表すものではありません。宍粟市ではこの調査結果を一つの目安として、課題を検証し、引き続き児童生徒の学習状況や学習指導の改善に取り組んでいます。



1 児童生徒の学習状況(各教科の平均正答率)

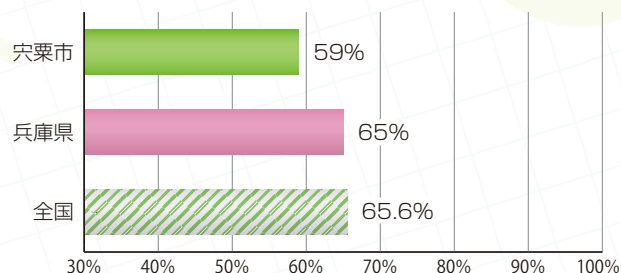
中学校3年生 国語



【中学校・国語】本市生徒の傾向と課題

- 文に即して漢字を書くことができます。
- 物語文における、「比喻」の意味や使い方が理解できています。
- △ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題が見られます。また、無解答率も高くなっています。
- △ 場面と場面、場面と描写を結びつけて、内容を解釈することに課題が見られます。また、無解答率も高くなっています。

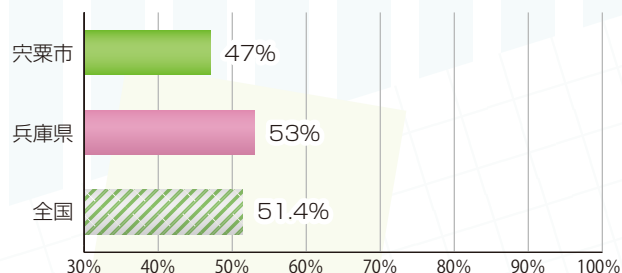
小学校6年生 国語



【小学校・国語】本市児童の傾向と課題

- 文や文章の中で漢字を正しく使うことができます(例:「したしむ」→「親しむ」)。
- △ 文章から必要な情報を見つけることに課題が見られます。
- △ 文章からよい点や問題点を見つけることができても、それを踏まえて自分の考えをまとめることに課題が見られます。
- △ 物語の中の表現が、読み手にどのような印象を与えるかを考える点に課題が見られます。

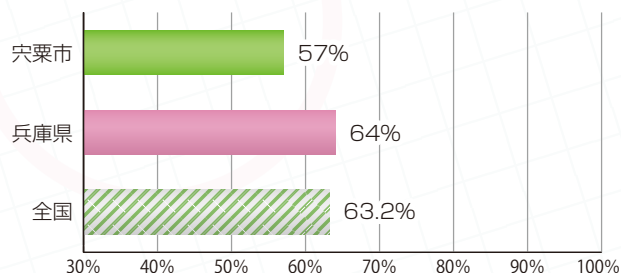
中学校3年生 数学



【中学校・数学】本市生徒の傾向と課題

- 自然数を素数の積で表すことができています。
- 予想がいつも成り立つとはいえない場合があることが理解できています。
- △ 図形の合同を例に、確率の問題について、「くりかえしの試行によって得られる数は、一定の値に近づいていく」という、確率の意味の理解に課題が見られます。
- △ グラフの情報を比較して説明することに課題が見られます。
- △ 三角形の合同の証明について、見通しを持って証明することに課題が見られます。また、無解答率も高くなっています。

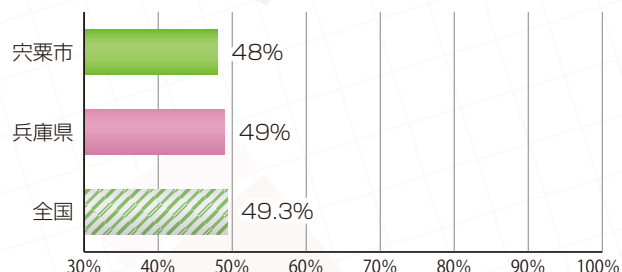
小学校6年生 算数



【小学校・算数】本市児童の傾向と課題

- かけ算やわり算など、基本的な概念や性質などの理解や計算技能の習得については、全国平均並みとなっています。
- △ 割合の問題について課題が見られます。百分率とは何かという、割合の基礎的な部分の理解が定着していないことがうかがえます。
- △ 答えの求め方を言葉や式を使って書く問題では無解答率が高く、正答率も低くなっています。

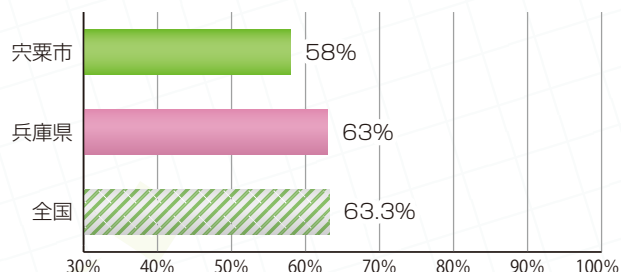
中学校3年生 理科



【中学校・理科】本市生徒の傾向と課題

- 空の様子を撮影した画像と観測データに関連づけて、天気の変化を分析することができています。
- 実験の結果が考察の根拠となるか検討し、実験の計画を考えることができています。
- △ 実験結果のグラフを見て、比例かそうでないか判断するために、実験をどう改善するかを考え、説明することに課題が見られます。また、無解答率も高くなっています。

小学校6年生 理科



【小学校・理科】本市児童の傾向と課題

- 昆虫の体のつくり(特徴)について理解できています。
- 実験器具(メスシリンダー)の使い方が理解できています。
- △ 実験の結果を考察する問題の無解答率が高く、自分の考えを持ち、その内容を文章で表現することに課題が見られます。
- △ 身の回りの事象・現象について、自分なりに見通しを持ったり、問題解決への道筋を構想したりすることに課題が見られます。

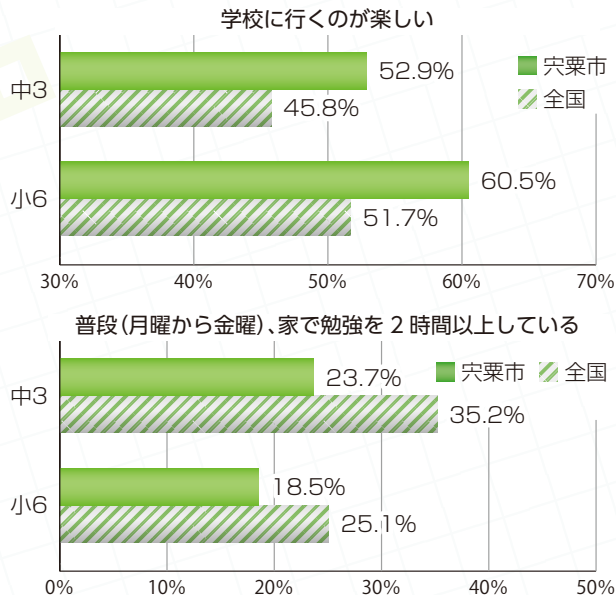


宍粟市の各教科の平均正答率は、中学校では全国と比較していずれもプラスマイナス5パーセントの範囲(全国平均と同程度)にありましたが、小学校では全国平均を5パーセント以上下回りました。学校では、授業改善をはじめとする指導方法や指導体制の工夫改善に努めます。特に、国語では、言葉を大切に授業づくり、算数・数学では、数学的なデータや要素を用いて文章を作ったり説明したりすること、理科では、観察や実験などを通じて得られた証拠や理由を書く、などの取り組みの継続・積み上げが大切です。

2

学校での生活(質問紙調査から)

学校では、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、子どもたちの豊かな学びのために、教職員が協働し、学習活動や学校行事を工夫して取り組んでいます。学力調査とともに実施された児童生徒の質問紙において、学習状況も含めた特徴的な項目をお知らせします。



「学校に行くのが楽しい」と答えた児童生徒の割合は全国平均値と比べ中学校3年生では7.1パーセント、小学校6年生では8.8パーセント高く、本市では多くの子どもたちが楽しみながら学校生活を送っている様子がうかがえます。また、「友だちと協力するのは楽しいと思いますか」などの質問事項に対して、「そう思う」と回答した児童生徒の割合も全国平均を上回っています。

「普段(月曜から金曜)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」との質問について、2時間以上と答えた児童生徒の割合は、全国平均値と比べ中学校3年生では11.5パーセント、小学校6年生では6.6パーセント下回っています。休日についてもほぼ同様です。学校では、家庭学習を習慣化させるために、宿題の量だけ増やすのではなく、子どもが主体的に家庭学習に取り組む内容となるよう工夫が必要です。

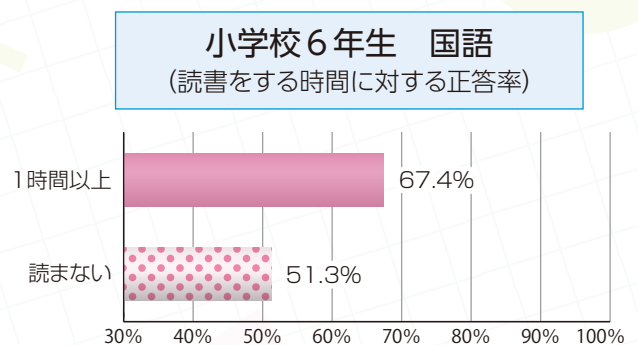
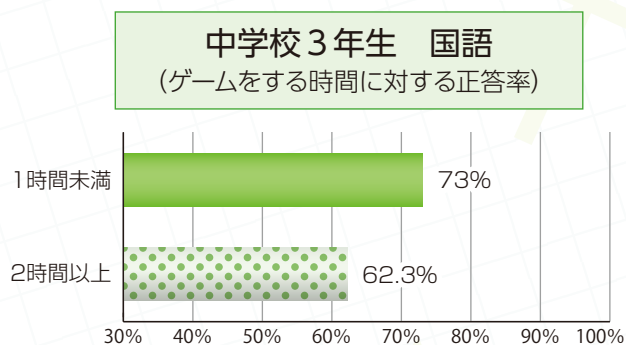


このほか「人が困っていたらすすんで助けている」や「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた児童生徒の割合は、全国平均値と比べて高い結果が出ています。学校や家庭・地域でのさまざまな場面を通して、子どもたちは良好な人間関係を築き、相手を思いやる気持ちを育てることがうかがえます。今後も、子どもたちに寄り添い、学校と家庭・地域の連携を強め、子どもたちの健やかな成長を図ることが大切です。

3

生活習慣と学力の関係(質問紙調査から)

児童生徒の生活習慣と学力には、相関関係があるといわれています。質問紙調査内容について、学力調査の平均正答率と相関関係が見られた、ゲームをする時間と家庭での読書の時間について、「国語の正答率」を参考にお知らせします。



普段(月曜から金曜)、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間が短いほど正答率が高い傾向が見られます。SNSや動画を視聴する時間についても、同様の傾向が見られます。これは、算数・数学、理科についても同じです。また、家で読書をする時間(月曜から金曜)を「1時間以上読む」と回答した児童生徒と「全く読まない」と回答した児童生徒では、「1時間以上読む」と回答した児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られ、特に小学校ではこの差が顕著に見られました。読書習慣の確立とともに、ゲームやSNS、動画の視聴等の時間のルールを作っておくことも大切です。

宍粟市教育委員会は、令和5年1月6日、山崎文化会館で教育研究大会を開催しました。

子どもたちの学力分析に取り組む「しろう学力向上検討委員会」からの報告があり、各教科部会（国語部会、算数・数学部会、理科部会）と、学習・生活状況調査部会のメンバーが、本年度実施された「全国学力・学習状況調査」について分析し、学力向上へ明らかになった課題とその改善方策のポイントなどを提言しました。また、大会の後半には、「学力の樹を育てる～子どもたちの豊かな学びのために～」と題して、学識経験者による講演も行いました。学力格差を生む社会的背景の現状、また、子どもたちの学力の「底上げ」「下支え」の必要性など、会場に参加した幼稚園・保育所・こども園を含む市内教職員と、学校からオンラインで参加したすべての教職員が、課題を共有し理解を深めました。



【学力向上にむけた授業改善のポイント】～各部会からの提言より～

今年度は、教科ごとに専門的な知見を持った学識経験者から助言を受けながら、課題分析や授業改善の取り組みについて、小中学校の教員が協力して研究を進めています。今後はこれらの提言にもとづいた授業改善に取り組めます。ここでは教育研究大会で各部会から提起された提言の一部を紹介します。

【国語部会】

- ・国語は「言葉の学習」です。説明文や物語文も、必ず書かれている文章を大切に、「言葉にこだわる」授業をしよう。
- ・中学校では、特に言葉を「根拠」とした学習活動となるように授業を工夫しよう。例えば「こう書いてあるから、自分はこう考える」といった考え方を身に付けさせ、生徒同士の交流や文章力の向上につなげよう。
- ・どの教科でも、話し合い活動においては、何について話し合うのか、「テーマ」や「論点」をはっきり示そう。

【算数・数学部会】

- ・買い物や学校での生活の場面を取り入れるなど、ふだんの生活と関連した授業づくりをしよう。
- ・子どもが問題文の内容をきちんと把握するよう、文章の内容を子どもと一緒に整理しよう。
- ・算数・数学的な書き方ができるよう、表やグラフなどを使って表現する工夫を取り入れよう。
- ・問題を解くための筋道を教師が言わず、子どもに考えさせる時間をつくろう。どんな計算や道具を使うのかも、子どもに考えさせよう。

【理科部会】

<小学校>

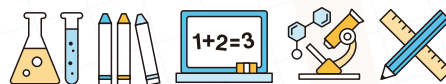
- ・観察や実験をしたあとは、子どもにしっかり考えさせよう。（主張、証拠、理由が書けるようなワークシートを活用しよう。）

<中学校>

- ・「科学のおもしろさが実感できる」授業づくりをしよう。
- ・観察や実験をしたあと、子どもにしっかり考えさせる活動を、小学校から継続し取り組ませよう。
- ・生徒が自ら学習を進められるよう、学びの過程をルーティン化させよう。

【学習・生活状況調査部会】

- ・スマートフォンやゲームに依存しないよう、各中学校区で学校と家庭が連携して、メディア機器を使うときのルール作りに取り組んでみよう。
- ・子どもたちが自ら課題を見つけ、主体的に取り組むように、小中学校で総合的な学習の時間など、探究する学習を充実させよう。



学校・家庭・地域が協力して、子どもたちの学力向上にむけて一緒に取り組みましょう！



- ① 教育委員会では、引き続き教員が子どもたちの学力保障をはじめとする、学力向上のための授業改善や日々の教育実践に取り組むことができるよう、上記の提言をまとめて学校に周知します。
- ② 自分で計画を立て、家庭学習に取り組むことができている児童生徒ほど正答率が高いです。学校での学習とともに、家庭での学習習慣の確立が重要ですので、学校と家庭が連携して取り組みましょう。
- ③ 家庭では、テレビやインターネット・ゲームなど、メディア機器を使う時間のルールを作っておくことと守るなど、基本的な生活習慣の確立をお願いします。また、家庭での読書も習慣化するようにしましょう。
- ④ 「自分が住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒は、今年度も全国平均を大きく上回っています。子どもたちが、住んでいる地域を大切にする心を育んでいくためにも、学校・家庭・地域のつながりを大切にしていきたいと思います。